

会 議 録（2月）

平成27年2月18日
教育委員会会議室

1. 出席委員 委員長 菊池 清隆 委員 藤岡 富生 委員 松本 学
委員 興梠 瞳 教育長 島寄 善真理
2. 書 記 教育次長 武内 秀元
3. 報 告
(1) 中学校統合準備委員会について
4. 協 議
(1) 協議事項なし
5. その他
(1) 第45回町民駅伝競走大会及び第30回小学生ロードレース大会結果について
(2) 小学校・中学校卒業式について
(3) 秋田県潟上市教育関係視察報告について
(4) 学校評価委員について

連絡事項

- (1) 教育委員会行事予定（2・3月）について

会 議 録 午後5時30分開会

委員長 あいさつ

議事録署名委員：松本 学 委員

【3. 報告】

1 中学校統合準備委員会について

- ① 武内次長が、総務部会・PTA部会・通学部会について、資料に基づき以下のよう説明する。
 - ・2月17日に全体会を開催したので、会議内容を部会ごとに報告した。
- 総務部会
制服デザインについて
 - ・総務部会では、ゴールドラインのセーラー服を推薦し、全小学校へ説明した後、最終的に全体会で決定する。
 - ・女子生徒の夏服は、学校で決めることとした。

校章デザインについて

- ・校旗等の作成のため、夏場までに校章デザインを決定する。
- ・生徒のデザインの一部を取り入れたデザイン及びプロの観点からのデザイン（生徒のデザインを取り入れないもの）を小方克浩氏に考えてもらう。

その他について

- ・校門の校名は、五ヶ瀬中等教育学校の書道顧問である本田淳也先生にお願いする。
- ・次回開催は、校章デザインの出来が早ければ総務部会を開き、27年度にずれ込む場合は、新年度に入り全体会を開催する。

■ P T A 部会

規約について

- ・協力金を年額600円とする。特別な理由等で支払いが困難な場合には強制はしないこととする。
- ・P T A会計の繰越金については、①各校で27年度までに使い切る。②繰越金をそのまま新中学校P T Aに持っていく。③生徒1人あたりの金額を決め、その額を28年度の開校時に繰り越す。という3案が出されたが、これについては再度協議することとなった。
- ・部会員の決定方法については、保留となった。学年単位、学校区単位、行政区単位のどこから選出するのが良いかを引き続き協議する。

■ 通学部会

- ・今年度中にG授業を利用して、実際に鞍岡地区から三ヶ所中学校にマイクロバスで登校する予定でいたが、G授業とマイクロバスの日程が合わず、実施出来なかった。
- ・新年度に入り、4月20日頃から5月にかけて、実施する予定。

■ 教育課程等検討部会

② 松下指導主事が以下のように説明する。

- ・教育課程については、まだ何も決定していない。この部会での原案をもって、両校の校長に出して、出来れば今年度中に、出来なければ次年度に教員が入れ替わるので、その時点で全教員に対して方針を説明する。全教員から意見を吸い上げながら、来年度の夏を目途に全てを決定するように動く。校長が決めて下ろすと、教員は自分たちの意見は反映されていないという形になるといけないので、当事者意識を持たせるためにそういう手法を取ろうと考えている。
- ・生徒会は、27年度から組織を合わせに入る。
- ・祇園大祭は、今の原案段階では、7月15日を休日とする方向で調整している。どこかの学年を行かせるとかいうことも検討してきたが、他の地区の祭り、他の地区の祭りは休日に開催されているが、そこにも学年全部を行かせないのか

という話になった時に難しいので、祇園大祭の日は平日であろうが学校は休みにして、鞍岡の生徒達は行ける、三ヶ所の生徒達も休みだから行ってみなさいと促しをするということで考えている。

- ・鞍岡中学校は、棒術・長刀の伝統芸能継承の時間が年間で4・5時間あるが、それが無くなるということで、三ヶ所中学校にもそういった時間を年間4・5時間程度設けて、選択制にして学ばせるというのはどうかと考えている。他にどれくらいの伝統芸能が出てくるのか分からないので、色々な方に話を伺いながら決めたい。鞍岡地区の中学校統合説明会で、統合した場合の伝統芸能継承の授業はどうなるのかと質問が出ていたこともある。三ヶ所中は元々無いので、やるとすれば、このようなアイデアで良いのではないか。
- ・部活動については、今ある部活動で考えている。小学校5年生には、どんな部活動に入りたいかのアンケートを取ろうと考えている。卓球をどうするかがポイントで、剣道、男子バレーボールは問題ない。三ヶ所中の野球部は、この秋から足りなくなる
- ・鞍岡で行っている小・中合同駅伝大会をどうするのか。残すとなると、町内全小学校を含めて行うのか。そうなるのかなり大がかりになるということも考えていなければならない。
- ・統合準備委員会では、保護者に対して一切内容を説明していない。決定した時点で説明する予定でいる。

(質疑等)

- ・決定した事項があれば広報誌に掲載出来るが、まだ決定したものが無いので、決定次第掲載する予定でいる。
 - ・現在は、どれも部会案で留まっているので、ある程度固まった時点で全体に図って統合準備委員会の決定事項であるというふうに持っていかないといけない。
- Q部活動については、生徒の意向を聞き、意思を尊重してあげないといけないのではないか。
- A統合の地区別説明会では、文化部も欲しいという意見が保護者から出されたが、これ以上部活動を増やすのは、教諭の人数も限られるので厳しい。
- ・現在の部活動種目の人数を知らせた上でアンケートを取る必要があるのではないか。入ってみたら少なかったとかではなくて、今何人いますということを予め知らせる必要があるのではないか。
- Q部活動種目の数が増える可能性もあるのではないか。卓球部があるんだったら入りたいと思う生徒もいるのではないか。以前は、卓球部が三ヶ所中にあった訳だから。陸上部もあった。
- Aそうすると体育館の巡り(使い方)を作らないといけないと考えている。
- Q7月15日を休みにするのであれば、伝統芸能伝承の日としてG授業で取り組むことは出来ないか。
- Aそうであれば、授業日とすることになる。今後、検討する。

- ・これまで鞍岡の祭りの日は、午前中3時間目まで授業で、午後祭りに行っていた。

【4 協議】

- ・協議事項はなし

【5 その他】

1 第45回町民駅伝競走大会及び第30回小学生ロードレース大会結果について

- ① 武内次長が資料に基づき以下のように説明する。

駅伝競走大会

- ・2月15日に開催した。駅伝は、予定通り24チームの参加があった。当初の予定では、一般の部17チーム、オープン7チームであったが、5行政区の「孫5班」がメンバーの変更によりオープン参加となったため、一般の部16チーム、オープン8チームとなった。
- ・1位が、「1区A」、2位が「チーム若桜」、3位「夕日の里ゼナ」であった。
- ・全体の成績では、オープン参加の「学びの森E」が一番速かった。
- ・大会の問題点があったので、大会役員から問題点を聞き取り、翌日教育委員会事務局内で来年度に繋げるための反省会を行い、意見を出し合った。

(質疑等)

Q 特別難しい問題はなかったのか。

A ストップウォッチの押し間違いというような問題はなかった。繰り上げスタートがあり、集計に時間を要した。

小学生ロードレース

- ・101名の参加があった。
- ・今回は、日之影町からオープン参加があった。
- ・問題点としては、低学年の参加者が集合時間に遅れたというようなことがあったので、来年度改善出来るよう反省点として意見を出した。

(質疑等)

- ・なし

2 小学校・中学校卒業式について

- ① 武内次長が資料に基づき以下のように説明する。

- ・出席予定表を提示し、出席者の確認を行った。これまでの出席者が分からなかったため、5年程前からの出席表で確認した。
- ・小学校の卒業式については、それぞれ地区の卒業式に出席する。
- ・中学校の卒業式については、教育長、教育委員長は前年度と変わらず、松本委員、藤岡委員、興梠委員は前年度と入れ替える。

- ・ 27年度の入学式についても協議した。
- (質疑等)
- ・ 年度毎の一覧表を作成し、誰がどこに行くのか分かり易くしてはどうか。

3 秋田県潟上市教育関係視察報告について

① 松下指導主事が資料に基づき以下のように説明する。

- ・ 2月9・10日で教育長、武内次長、松下指導主事、鞍中田代校長、三小猪野教頭、上小佐藤教諭、鞍小山之口教諭の7名で秋田県潟上市へ視察に行った。全国学力調査の結果が全国トップということで、大寒波に重なり行けるか分からなかったが、どうにか行けた。
- ・ 全国1位だけあって、教員の質が高かった。特に小学校の教員のレベルが高かった。うちも鍛えているつもりだったが、その上を行くような授業を見せられた。教員には刺激になった。
- ・ 教育委員会の取り組みが、教員を育てるためのシステムが出来ている。子供一人ひとりに配慮するための教員を付けるというのもあるが、教員を育てるために付いている教員もいた。二人で授業を行い、若手の教員とペアを組んで指導していた。
- ・ 秋田型の授業スタイルが確立されており、そこを徹底して教員の資質向上に充てている。
- ・ 子供たちに問題を投げかけるにしても、質の高い投げかけをしようというところはかなり力が入っている。例えば、理科の授業で「メダカの血管の中の様子を観察しよう」というのがあると、往々にしてそういう投げかけをするが、もっと子供たちの話し合いが広まるように、深まるように「メダカの尾びれの血管はどのように分布し、血液はどのように流れているのだろうか」と、より具体的に指示を出したりしている。算数であれば、三角形の仲間分けをする場合、「辺の長さに目を付けると三角形はどんな仲間に分けられるだろうか」という投げかけをして、「辺の長さを見たらこうなっているからこういうふうに分けられます」というような問いかけでやらせているという説明を受けた。その指導をしているのが教育専門官という方である。
- ・ 東湖小学校の授業は、元専門官という方であった。子供たちに対して細かな配慮もあり、子供たちのやり取りが非常に上手な方であった。
- ・ 黒板の使い方がキチッと組み立てられていて、学びが分かるようにしてあったり、ホワイトボードでこれまでの学びとこれからこういうことをやるという見通しが持てるように使われていた。
- ・ ノートも一人ひとり集めて、振り返りを作文みたいに書かせている。それに対してキチッとコメントを書いて返すようにしている。一人ひとりに対して見届けをして行こうという取り組みが出来ていた。
- ・ 「教育専門官とともに授業力向上」というのが良い。教育専門官が学校をフリーで動くようなシステムになっている。例えば、五ヶ瀬で言えば、三小、坂小、

上小に転々と動いて行って、いろんな先生とペアを組んで、指導して行くというのがメインの方であった。これは県が一人付けているようであった。市町村から要望があれば、県が付けるシステムの方であった。残念ながら宮崎県にはないので、県と話す機会があれば要望したい。

- ・ 町で出来ることを今回の視察を元に考えてみようという教育長に相談した。具体的に動き出してはしないので、策が固まったら相談したい。

(質疑等)

Q 教科毎に教育専門官は配置されているのか。

A 小学校は、教諭が全教科教えるので専門官は一人だけで、中学校は、この学校は数学が一人だけ配置されていた。小学校6校に中学校3校あるが、全校回れる訳ではなく、小学校3校だけ決めた学校を回っている。

- ・ 小学校は、来年度、秋田県の良いところを活かそうと考えている。秋田県に行った教諭を中心に考えて行きたい。
- ・ 驚いたのは、小学校の規模が三ヶ所小よりちょっと少なめだったが、この先生は飛びぬけて素晴らしい方でしょうと聞いたら、同レベルの教諭が他に2名くらいいると言われた。
- ・ 教育専門官を終えたら、普通の教諭に戻るようになっている。
- ・ 宮崎のスーパーティーチャーは、よそに動かずに自分のクラスを観に来るようにしている。
- ・ 教員も勉強になるし、専門官もレベルアップするのではないかな。
- ・ プロ意識を感じた。学力が高いことへの自信があるのではないかな。

Q 潟上市は秋田県でトップなのか。

A 潟上市は、平成20年頃は秋田県では下の方に位置していたが、そこから上げてきて、現在もトップではないが、小学校は上がってきている。

- ・ 潟上市の学校教育課長が宮崎県と繋がりのある方で、門川町から呼ばれて行ったことがある方であった。宮崎県からの視察だということで受け入れてもらった。

4 学校評価委員会について

① 松下指導主事が以下のように説明する。

- ・ 今年度から2ヶ年の任期で学校評価委員をお願いしているが、西川さんが体調の都合上、今年度で交代したいと申し出があった。代わりを探して、次年度スタートしたいと考えている。
- ・ 評価の内容については、次回の教育委員会で説明するが、概ねどの学校も良い評価をいただいた。委員さんが替わって見方が変わったことによって、学校には刺激になって良いと考えている。

(質疑等)

Q 評価委員の名簿で、26年度から28年度まで小学校の場合は、3年間この方々をお願いするのか。

A 3年間同じ方をお願いしている。28年度は、鞍岡中学校がなくなるので、鞍岡小学校区の委員さんには三ヶ所中に入れてもらって、今まで鞍岡で見ていた子どもたちがどうしているかを観てもらうのが良いのではと考えている。

連絡事項

1 委員会の2・3月行事予定

※ 一覧表により次長が説明する。

次回の定例教育委員会日程

平成27年3月17日（火）午後1時00分 中学校卒業式後に、教委委員会において開催する。

閉会時刻 午後6時47分

教育委員長

会議録署名委員

会議録調整者